

交通まちづくり公開講座

LRT 学習会 富山 編

JR 城端・氷見線 LRT 化検討を受けて、さまざまな LRT について学ぶ講座の 2 回目。低床車両と高床車両が相互乗り入れする福井編に続いて、コンパクトシティの交通インフラとして注目を集める富山ライトレールについて、計画当初から一貫してかかわった富山市担当者と交通政策の研究者に、お話しいただきます。

◇日 時 2020 年 10 月 4 日(日)14:00～16:00

◇場 所 となみ散居村ミュージアム

◇内 容

・解説 「さまざまな LRT のかたち」

本田 豊 氏 (富山大学都市デザイン学部教授)



略歴:1962 年富山県生まれ。84 年神戸大学工学部卒業後、建設コンサルタント、兵庫県職員を経て、2018 年 4 月から現職。NPO 法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾理事。著書に、『都市交通の切り札 LRT を検証する』、『LRT による新しいまちづくりを実現するために』『日本における LRT 整備の課題 - LRT による都市再生を進めるために -』ほか。

・講演 「富山港線を路面電車化 (LRT 化) により再生した富山市の取り組みについて

～ 開業から約 14 年経過した今、あらためて振り返る ～ 」

谷口 博司 氏 (富山市路面電車推進課指導官)



略歴:1956 年富山市生まれ。79 年千葉大学園芸学部卒業、80 年富山市職員。2003 年新幹線・富山駅周辺整備課連続立体交差担当主幹、04 年富山港線路面電車推進室室長代理(連続立体交差担当主幹)、07 年都市整備部路面電車推進室長、14 年都市整備部次長(技術担当)、15 年都市整備部理事(次長・技術担当)、17 年退職、路面電車推進課指導官。

◇定員 40 人 (先着順)

申し込みは、グーグルフォームから必要事項を送信ください。
スマホは QR コードを読み込んでください。—————▶
パソコンは市民会議 HP から。お電話でも受け付けます。



主催:呉西地区交通まちづくり市民会議 事務局:☎090-6273-3195

※ホームページ(<https://koutsukaigi.tonamino.info/>)に、過去の講座の録画・資料などを掲載しています。

後援:となみ散居村ミュージアム

◆谷口博司氏プロフィール

1956年、富山市に生まれる。現在63歳。

千葉大学「造園学科」卒業。80年4月、富山市役所に就職、公園緑地課に配属される。家業が製材業でありながら、樹木を守り育てることが仕事となる。しかし、家業の事情により製材業を手伝う必要が出てきたことから、しばらくの間、夜間や休日などの空き時間に家業を手伝うことになる。（このことが、後の「富山港線の路面電車化事業」に役立つことになる。）

その後、公園建設のため予定地買収の増加が見込まれたことから、87年4月、人事異動により「堀川西土地地区画整理事務所」に配属される。補償業務を担当しキャリアを積む。（後に、ここでのキャリアも「富山港線の路面電車化事業」に役立つことになる。）

92年4月に補償業務のキャリアを買われ、想定外の都市計画課へ異動。当時、新幹線の開業に備え、富山県が中心となり国・県・市、鉄道事業者、経済界などの関係者を調整しながら、富山駅北地区をビジネスパークとして再生を目指す「とやま都市MIRAI計画」が進められており、このプロジェクトの担当となる。ここでは、専門的な知見に加え、計画、調整、設計、工事まで総合的な知見が求められた。富山駅周辺のプロジェクを推進することが楽しく、事業が終了するまでの9年間関わり続けることとなる。（後にここでのキャリアも「富山港線の路面電車化事業」に役立つことになる。）

2000年には「とやま都市MIRAI計画」が終了し、01年には、新幹線富山駅工事の着手が決まった。このため富山駅周辺整備に関して県と市の役割分担もこれに併せ決まった。この時、課題であった富山港線の路面電車化事業は富山市が担当することになる。このため、これ以降の路面電車に関するプロジェクトにかかわり続け、現在に至っている。

※ 参考

- | | |
|----------|------------------------|
| 2003年 5月 | 森市長が富山港線の路面電車化を表明 |
| 2006年 4月 | 富山ライトレール開業 |
| 2009年12月 | 市内電車 環状線開業 |
| 2015年 3月 | 路面電車南北接続1期開業 |
| 2017年 3月 | 富山市役所 退職 |
| 2017年 4月 | 富山市役所 路面電車推進課 指導官(再雇用) |
| 2020年 3月 | 南北接続開業 |